



# 単科大学最後の東薬祭

十一月三日から五日にかけて東薬祭が開催された。今年は期間が例年より一日短かったが、その分内容の詰まつたが、イベントになつたようだ。特に今年は単科大学最後の東薬祭でしかも第四十回という記念すべきものであり、それにふさわしく天候も三日間とも素晴らしい秋晴れとなつた。ここで東薬祭の三日間を振り返つてみよう。

文化の日にあたる三日には多数の一般客が訪れた。イベントも講演会、音楽祭と、薬祭の目玉とも言えるものがこの日に集中した。

講演会には元西武ライオンズの投手で、現在解説者として活躍中の東尾修氏が招かれた。氏は二十年間の現役時代について、和やかで楽しい講演をされた。東尾氏は「若い

時はおとなしくしてははつまらない。小さなスランプは当たり前。夢と欲とを持つては、自分から一步を切り出してほしい」と力強く語られた。音楽祭では「それが大事」でおなじみの大串MANブラザースバンドが、一時間半にわたって数多くのポップスを聞かせてくれた。

二日目に当たる四日には、公開実験や中夜祭等が開催された。公開実験は「身のまわりの微量物質を測ろう」というテーマの第二分析化学教室と、「酸素は毒だ」というテーマの第一衛生化学教室によつて行われた。第二分析化学教室の実験ではタバコ煙中の発癌物質の定量などの実験が行われ、第一衛生化学教室では活性酸素によるDNAの損害などを測定した。

十月二十日、大盛況のうちに体育祭が終了した。この日は昨年が雨天にたたられたのに引きかえ、青空の広がる、それぞれ熱戦が繰り広げられた。結果は次の通りである。

## 体育祭終了

★男子研究室対抗リレー

優勝：陸上

優勝：バスケ

優勝：陸上

優勝：バスケ